

令和7年12月13日(土)～令和8年3月15日(日)

令和7年度むかしの暮らし展

「コメ物語 ～受け継がれてきた営み～」

世代を問わず親しまれている定番の展示会「むかしの暮らし展」。令和7年度は「コメ作り」に焦点を当てた展示を開催しました。

コメは、二千年以上前から、人々の暮らしを支えた食料であると同時に、政治・経済・文化の基盤として重要な役割を果たしてきました。

本展では、そうしたコメの歴史的な位置づけをふまえ、先人たちが工夫を重ねてきたコメ作りの歩みを、資料を通してたどりました。



展示会場（正面から）

踏み車（水車）や鋤・鍬、千羽扱き、唐箕、米穀商引札などの資料や道具の数々を展示するとともに、コメ作りから派生した地域の文化はせいに関わる資料も交え、コメとともに受け継がれてきた営みについて紹介しました。

【第一章 コメの国 Nippon】

日本では、今からおおよそ二千年以上前からコメ作りが行われていました。
やがてコメ作りは各地へ広がり、農耕を基盤とした社会が形づくられました。



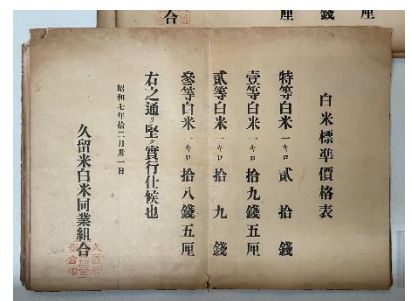
展示の様子



お米のできるまで



米穀商引札



白米標準価格表

【第二章 実りを支えた道具】

コメ作りは、季節ごとに田を整え、苗を育て、田植えを行い、草取りや害虫よけをしながら、実りを収穫していく一年の営みです。かつては、そのひとつひとつを人の手と知恵で行っていました。



展示の様子



鋤や鍬など耕したり種まきに使う道具



おけ みの かさ
モッコや打ち桶、蓑、笠など田植えの道具



これらの農具は、作業を少しでも楽に、確かな実りに近づけるために工夫されてきたもので、自然と向き合いながらコメを育ててきた先人たちの経験と技が刻まれています。



かんづめ
雁爪など田の草取りに使う道具



だっこくき
唐箕、足踏み脱穀機など収穫に使う道具



千歯扱き、鎌、油差しなど



まんごとお
お米とゴミを選別する万石通し

【第三章 コメと文化】

コメ作りは、食を得るための営みであると同時に、人びとのくらしや祈り、地域のつながりを形づくってきました。



展示の様子



「田主丸の虫追い祭り」

「虫追い」は、江戸時代、コメ害虫「ウンカ」を追い払う農作業でしたが、時代とともに豊年を祝う祭りになっていきました。

どうらんばち 「花火動乱蜂」

久留米市山川町王子若宮八幡宮の神事として、あくえきたいさん悪疫退散と豊作を祈って奉納打ち上げを続けられており、福岡県の無形民俗文化財に指定されています。





「城島町の酒造り」

江戸時代の中頃、筑後平野の良質なコメと豊かな水を使って始まり、今では全国清酒品評会で受賞するなど、城島町の酒は「東の灘、西の城島」と称されるまでになりました。

【トピック展示】

「稲作にまつわる あんなこと こんなこと」

ここでは、コメ作りをテーマにした郷土玩具や写真、^{ほうじょう}褒状など様々な資料を集めて紹介しました。



令和7年度
むかしの暮らし展

コメ物語

～受け継がれてきた営み～



【期間】 令和7年12月13日土～令和8年3月15日日

【会場】 くるめりあ六ツ門5階 六ツ門図書館展示コーナー

〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町3-11 くるめりあ六ツ門5階

TEL0942-27-9281 FAX0942-27-7281

■JR久留米駅から徒歩約15分 ■西鉄久留米駅から徒歩約10分 ■バス停「六ツ門・シティプラザ前」から徒歩約2分
■くるめりあ六ツ門地下駐車場・トラストパーク六ツ門駐車場にご駐車の場合、「くるめりあ六ツ門」利用サービスとして
2時間無料になります。図書館内カウンターで駐車券に利用証明スタンプを押印いたしますので、その後、1階の
インフォメーションカウンターにて割引処理をご依頼ください。

